（別紙様式４）

職業実践専門課程の基本情報について

学　校　名	設置認可年月日	校 長 名	所　　在　　地
あいち福祉医療専門学校	平成14年3月29日	熊崎　正実	〒456-0002 名古屋市熱田区金山町一丁目7番13号 （電話）052-678-8101
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所　　在　　地
学校法人　電波学園	愛知県/文部省 昭和34年3月31日/ 昭和61年12月23日	理事長　小川　明治	〒456-0031 名古屋市熱田区神宮四丁目7番21号 （電話）052-681-2299

目的	本校は、教育基本法の精神に則り、学校教育法に従い、理学療法に関する基礎教育と専門的実践教育を行い、社会から喜ばれる知識技能と歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、社会に貢献することを目的とする。

課　程　名	学　科　名	修業年限（昼、夜別）	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
医療専門課程	理学療法学科	３年（昼）	３０６０単位時間（又は単位）	平成6年文部大臣告示第84号	―
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技
	１５９０単位時間（又は単位）	１６５単位時間（又は単位）	０単位時間（又は単位）	１３０５単位時間（又は単位）	０単位時間（又は単位）

生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数
１２０人	１０２人	６人	１４人	２０人

学期制度	■前期： 4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日	成績評価	■成績表（有・無） ■成績評価の基準・方法について 100点満点で60点以上を合格
長期休み	■学年始め：4月2日 ■夏　　季：7月21日～8月31日 ■冬　　季：12月25日～1月10日 ■学 年 末：3月25日～3月31日	卒業・進級条件	在籍学科のすべての教育課程を履修し、かつ履修科目すべてにおいての審査基準を満たし、所定の出席時間数を確保した者
生徒指導	■クラス担任制（有・無） ■長期欠席者への指導等の対応 保護者への連絡を密にする	課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動 ■サークル活動（有・無）
主な就職先	■主な就職先、業界 病院・介護老人保健施設 ■就職率１００％	主な資格・検定	理学療法士
中途退学の現状	■中途退学者１２名　　■中退率１１％ 平成２４年４月１日在学者１０５名（平成２４年４月入学者を含む） 平成２５年３月３１日在学者９３名（平成２５年３月卒業生を含む） ■中途退学の主な理由 進路変更、学業不振、経済的、病気 ■中退防止のための取組 正課後の補習、個人面談、教育懇談会（保護者会）の実施、臨床心理士常駐		
ホームページ	URL：http://fukushi-iryo.denpa.jp/		

１．教育課程の編成

（教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針）

医療機関、福祉施設、およびﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医療の職能団体との連携により必要となる最新の知識、技術、技能を教育課程に反映させるために、それら機関等から教育課程編成委員会の委員を構成し、学科専任教員の情報収集、研修で得た人材育成のためのカリキュラム情報とともに、専門職業人育成に向け授業科目、授業内容や方法の改善工夫を協議し、教育課程に盛り込むことを基本方針とする。

（教育課程編成委員会等の全委員の名簿）

平成２５年１０月１日現在

名　前	所　　属
鳥山　喜之	一般社団法人　愛知県理学療法士会　／　医療法人桂名会　木村病院
早川　昌宏	社会福祉法人長寿会　特別養護老人ホーム　シルバーピアかりや
星野　茂	蒲郡市民病院
三輪　大輔	医療法人純正会　デイサービスセンター太陽
熊崎　正実	あいち福祉医療専門学校
杉村　行雄	あいち福祉医療専門学校
水谷　優子	あいち福祉医療専門学校
筧　　重和	あいち福祉医療専門学校
竪山　陽一	あいち福祉医療専門学校
飛田　いく子	あいち福祉医療専門学校
下里　　充	あいち福祉医療専門学校
矢島　親男	あいち福祉医療専門学校

（開催日時）

第１回　平成２５年１１月３０日　１３：００～１３：４０

第２回　平成２６年　１月１１日　１５：００～１６：００（予定）

２．主な実習・演習等

（実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針）

今後の理学療法士養成課程における学習意欲の向上

治療の知識・評価技術の習得、治療に向けた評価知識・評価技術の習得

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
臨床実習Ⅰ（見学）	１．地域での病院・施設の役割やリハビリテーション部門の概略を理解する。２．社会や医療の中における理学療法士の役割と責任を理解する。３．患者様や指導者・スタッフとのコミュニケーションのとりかたを学ぶ。４．社会人・職業人としての目を養い、心を養う。５．理学療法士になることへの動機づけを高め、以後の学習への意欲を高める。	実習病院および実習施設
臨床実習Ⅱ（評価）	１．授業で学んだ知識・技術を、実習指導者の下で実際に症例に応用する。２．評価の一連の流れを体得する。３．症例の身体機能、精神機能、生活機能等を様々な角度から分析し、問題を把握する。４．医療人・職業人としての目を養い、心を養う。	実習病院および実習施設
臨床実習Ⅲ-1（総合）	１．評価実習の経験を生かし、対象者様の全体像をとらえ目標設定をおこない、実習指導者の指導の下で理学療法プログラムを立案、実施する。２．対象者様との交流を通して、生活の視点を養う。	実習病院および実習施設

	３．リハビリテーションチームのあり方を学ぶ。 ４．専門職・社会人として責任ある態度・行動がとれるようになることを目指す。	
臨床実習Ⅲ-2(総合)	１・評価実習の経験を生かし、対象者様の全体像をとらえ目標設定をおこない、実習指導者の指導の下で理学療法プログラムを立案、実施する。２．対象者様との交流を通して、生活の視点を養う。 ３．リハビリテーションチームのあり方を学ぶ。 ４．専門職・社会人として責任ある態度・行動がとれるようになることを目指す。	実習病院および実習施設

３．教員の研修等

（教員の研修等の基本方針）

研修は、職員に現在就いている職又は将来就くことが予想される職の職務と責任の遂行に必要な知識、技能等を修得させ、その遂行に必要な職員の能力及び資質等の向上を図る。

４．学校関係者評価

（学校関係者評価委員会の全委員の名簿）

平成２５年１０月１日現在

名　前	所　　属
植村　民樹	社会福祉法人永甲会　総合福祉施設　かすみの里
早川　昌宏	社会福祉法人長寿会 特別養護老人ホーム　シルバーピアかりや
佐野　明子	京ケ峰　岡田病院
鳥山　喜之	医療法人桂名会　木村病院
星野　茂	蒲郡市民病院
後藤　博	（保護者）（株）カッセイシステム
三輪　大輔	医療法人純正会　デイサービスセンター太陽
太田　幸二	医療法人真善会　神尾外科
熊崎　正実	あいち福祉医療専門学校
伊藤　真二	あいち福祉医療専門学校
杉村　行雄	あいち福祉医療専門学校
水谷　優子	あいち福祉医療専門学校
土田　　徹	あいち福祉医療専門学校
筧　　重和	あいち福祉医療専門学校
竪山　陽一	あいち福祉医療専門学校
山本　　誠	あいち福祉医療専門学校
飛田　いく子	あいち福祉医療専門学校
下里　　充	あいち福祉医療専門学校
矢島　親男	あいち福祉医療専門学校

（学校関係者評価結果の公表方法）

URL: http://fukushi-iryo.denpa.jp/

５．情報提供

（情報提供の方法）

URL: http://fukushi-iryo.denpa.jp/

授業科目等の概要

（医療専門課程　理学療法学科）平成２５年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			医療倫理・死学	将来医療人として働くリハビリテーションスタッフとしての知識と生あるものの避けられない死について、正しく理解をし、医療介護の対象に対して何が出来うるかを考える。	1前	30		○		
○			心理学	心理学の基礎的な理論（知覚・行動・発達・人格・臨床・社会等）を学ぶ。	1前	30		○		
○			統計学	統計学に関する基礎的知識を習得させ、実際の業務に就いたときに必要になると思われる統計的手法によるデータの処理や分析法について、基礎的な概念や考え方が理解出来ることを目的とする。	1前	30		○		
○			情報処理	パソコンの知識、操作方法、オペレーション技術（ワープロ、表計算ソフト）、及びインターネット、情報検索やメール操作などの基本について学ぶ。	1前	45			○	
○			生物学	理学療法学科において、解剖学や生理学などの専門分野の科目を履修するにあたり、それらの科目の基礎として細胞や遺伝子から調節や代謝の過程まで幅広い生物学の知識を修得することを目的とする。	1前	30		○		
○			英語	医療現場やリハビリテーション分野でよく使用される用語を理解し英語で記憶する。また、英語の医学論文を読むことができるようになることを目指す。	1前	30		○		
○			指導技術論・接遇法	医療現場で働く者として利用者様（患者様）やご家族に満足を与え、自分も楽しんで仕事ができるよう接遇マナーの基本を学ぶ。	2後	15		○		

○			保健体育	各種、種目を通してチームにおける自己のやくわりを自覚してその責任を果たし互いに協力して練習・ゲームを行う態度を養わせる。	1 通	30		○		
○			総合学習論	入学後の学習方法などについて,身につけることを目的とする。	1 通	60		○		
○			解剖学Ⅰ	解剖学Ⅰでは総論と各論の一部を学ぶ。総論では高等学校理科の知識の延長上に「人体のあらまし」を学ぶことによって、人体に対する考え方を養い、医学系学習（書物）に対する抵抗感を緩和することに役立てる。	1 前	60		○		
○			解剖学Ⅱ	燃焼に不可欠な酸素を初め、栄養物や老廃物、体熱や調節因子など多くの物質の輸送機構である脈管系、エネルギーの元となる栄養素摂取系である消化器系、エネルギー産生に不可欠な燃焼を支える呼吸器系、エネルギー活動によって生じた老廃物を処理し、同時にホメオスタシス維持に関わる排泄器系として泌尿器系について、子孫繁栄を司る生殖器系、２大調節系の１つである腋生調節系としての内分泌器、さらに生体防御機構に参画する免疫系器官について理解を深める。	1 後	60		○		
○			解剖学実習	解剖学で学んだ人体構造を三次元的に理解する。また、各器官及び部位の名称を正確に学習する。	1 後	45				○
○			機能解剖学Ⅰ	理学療法士にとって必要な骨・筋・神経の触察技術を身につけることを目的とする。	1 前	45				○
○			機能解剖学Ⅱ	理学療法士にとって必要な骨・筋・神経の触察技術を身につけることを目的とする。	1 後	45				○
○			生理学Ⅰ	生理学Ⅰでは神経系と骨格筋及び感覚系が如何に生体内で機能しているかを理解することを重点に講義する。	1 前	30		○		
○			生理学Ⅱ	生理学Ⅱではこれらの諸器官がいかにして生体内で機能しているかを理解し、生体のホメオスタシスを学ぶことにある。	1 後	30		○		
○			生理学実習	本実習の目的は神経と骨格筋の各々の働きを測定し、実際に自分の目で観察する事により、その性質を理解することである。	1 後	30				○

○			運動学Ⅰ	生理学的要素の基礎となる生体の構造と機能について学習する。	1 前	30		○		
○			運動学Ⅱ	生理学的要素の基礎となる生体の構造と機能について学習する。	1 後	30		○		
○			運動学実習	正常と健常者との違いを理解することを目的とする。	1 後	30				○
○			人間発達学	この講義は発達心理学をベースに、胎児期から老人期までの生涯にわたって、発達段階ごとの時期（胎児期・幼児期・児童期など）で、心理学的知見に立った場合に、知っておいた方が良いだろうと思われる重要な事柄、またこの時期独特の問題点について理解する。	1 後	30		○		
○			臨床心理学	医療関係従事者として、現場で必要とされる臨床心理学の基礎的な知識を身に付けることを目的とする。	1 後	30		○		
○			内科学	内科学の知識習得を目的とする。	1 後	30		○		
○			整形外科学Ⅰ	整形外科学の知識習得を目的とする。	2 前	30		○		
○			整形外科学Ⅱ	整形外科学の知識習得を目的とする。	2 後	30		○		
○			神経内科学	内科学の知識習得を目的とする。	2 前	30		○		
○			脳外科学	脳外科学の知識習得を目的とする。	2 前	30		○		
○			精神医学	精神医学の知識習得を目的とする。	2 後	30		○		
○			小児科学	小児科学の知識習得を目的とする。	2 後	30		○		
○			老年学	老年学の知識習得を目的とする。	1 後	30		○		
○			地域医療学	地域医療学の知識習得を目的とする。	2 前	15		○		
○			リハビリテーション医学	リハビリテーション医学の定義と理念、チームアプローチなど、リハビリテーショ医学を志していく上で、必要な基礎知識の習得を図る。	1 前	15		○		
○			画像診断学	画像からみる障害像の捉え方を理学療法士の視点で症例検討を含め理解することを目的とする。	2 後	30		○		
○			リハビリテーション概論	リハビリテーションとは何かを学び、リハビリテーションという言葉の真の意味を理解し学習する。	1 前	15		○		

○			作業療法学概論	理学療法と作業療法の共通点，相違点を学ぶ。作業療法の過程や実際，管理・運営を含め，「作業療法とは何か」，「作業療法士の役割は何か」を理解する。	1前	15		○		
○			言語療法学概論	脳卒中による言語機能障害や嚥下障害、聴覚等の障害を有する方々に対するリハビリテーションを理解する。	1前	15		○		
○			保健医療福祉概論	福祉を必要とする人々の暮らしがどうなっているか、それに対して社会福祉にはどのような役割があるのかを理解し、社会福祉の歴史・法体系・社会保障制度などについて学ぶ。	1前	30		○		
○			理学療法学概論	リハビリテーションチームの一員である理学療法士の歴史・業務内容について理解する。	1前	30		○		
○			臨床運動学	動作分析について理解を深め，動作分析を身につけレポート作成ができるようになることを目的とする。	２前	30		○		
○			理学療法研究法	研究方法の概要を学び、理学療法を科学的に見る目を養う。理学療法にとって研究の重要性を認識する。学会参加や論文講読に慣れるための基礎を学ぶ。	２後	30		○		
○			理学療法評価学Ⅰ	理学療法評価の位置づけを十分に理解し、意義・目的を学習したうえで、実際の技術を習得することである。	1後	30		○		
○			理学療法評価学Ⅱ	理学療法評価の各論として、各検査・測定の意義・目的・方法を学ぶ。理学療法における障害の捉え方を学び、適切な評価を選択できる能力を習得する。また評価した結果を統合・解釈し、対象者の全体像を把握する能力も習得する。	２前	30		○		
○			理学療法評価学Ⅲ	理学療法評価の各論として、各検査・測定の意義・目的・方法を学ぶ。理学療法における障害の捉え方を学び、適切な評価を選択できる能力を習得する。また評価した結果を統合・解釈し、対象者の全体像を把握する能力も習得する。	２後	30		○		

○			理学療法評価学実習Ⅰ	理学療法評価の各論として、各検査・測定の意義・目的・方法を学ぶ。理学療法における障害の捉え方を学び、適切な評価を選択できる能力を習得する。また評価した結果を統合・解釈し、対象者の全体像を把握する能力も習得する。	２ 前	45				○
○			理学療法評価学実習Ⅱ	理学療法評価の各論として、各検査・測定の意義・目的・方法を学ぶ。理学療法における障害の捉え方を学び、適切な評価を選択できる能力を習得する。また評価した結果を統合・解釈し、対象者の全体像を把握する能力も習得する。	２ 後	45				○
○			運動療法学	運動療法各論を行う前提として知っておかなければならない基本・基礎分野の習得を目指す。	１ 後	30		○		
○			理学療法治療学Ⅰ	脳卒中に対する理学療法士の役割、理学療法の理論・技術を習得する。	２ 前	30		○		
○			理学療法治療学Ⅱ	理想的な治療指標と適用手段を選定した運動療法の選定と、種々の治療的要素の統合ができることを目標とする。	２ 前	30		○		
○			理学療法治療学Ⅲ	子どもの正常な発達を理解し、それに基づき障害児の違いを考え、障害児の評価、プログラムの立案、治療のポイントを学ぶ。	２ 前	30		○		
○			理学療法治療学Ⅳ	整形外科疾患に対する理学療法を行うにあたり必要な整形外科疾患の病態・生理を理解し、各疾患に対する理学療法を学ぶ。	２ 前	30		○		
○			理学療法治療学Ⅴ	上肢・下肢の代表的なスポーツ外傷（急性外傷、慢性外傷）への理学療法について実習を含めて学ぶ。	２ 後	30		○		
○			理学療法治療学Ⅵ	呼吸の解剖学・生理学，呼吸器疾患，呼吸器理学療法，排痰法，吸引についての知識・技術を身につけることを目的とする。	２ 後	30		○		
○			理学療法治療学実習Ⅰ	解剖学，運動学，運動療法学，理学療法評価学，理学療法治療学などの講義で学んだ知識を応用し、学生同士の実習を通じ各種治療手技の基礎をしっかりと習得することを目的とする。	２ 前	30				○

○			理学療法治療学実習Ⅱ	解剖学，運動学，運動療法学，理学療法評価学，理学療法治療学などの講義で学んだ知識を応用し、学生同士の実習を通じ各種治療手技の基礎をしっかりと習得することを目的とする。	２ 前	30				○
○			理学療法治療学実習Ⅲ	解剖学，運動学，運動療法学，理学療法評価学，理学療法治療学などの講義で学んだ知識を応用し、学生同士の実習を通じ各種治療手技の基礎をしっかりと習得することを目的とする。	２ 後	30				○
○			理学療法治療学実習Ⅳ	解剖学，運動学，運動療法学，理学療法評価学，理学療法治療学などの講義で学んだ知識を応用し、学生同士の実習を通じ各種治療手技の基礎をしっかりと習得することを目的とする。	２ 後	30				○
○			義肢装具学	理学療法の中で必要とされる義肢・装具について、知識と理解を深める。	２ 前	30		○		
○			義肢装具学実習	理学療法の中で必要とされる義肢・装具について、知識と理解を深める。	２ 後	30				○
○			物理療法学	理想的な治療指標と適用手段を選定し、治療プログラムへ組み込むことによって、リハビリテーション治療計画に適切な物理療法と種々の治療的要素の統合ができることを目標とする。	２ 前	30		○		
○			物理療法学実習	実際に生体の生理学的反応を体感することで「物理療法学」で学んだ物理療法の有効性，リスク管理の面から最適なインターベンションを適用するための判断能力を身につけること、ならびに種々の治療的要素の統合ができることを目標とする。	２ 後	30				○
○			日常生活活動学	日常生活活動の評価の目的、評価項目、評価法について学ぶ。	２ 前	30		○		
○			日常生活活動学実習	日常生活活動の評価の目的、評価項目、評価法について学ぶ。	２ 後	30				○
○			理学療法治療学演習Ⅰ	解剖学，運動学，運動療法学，理学療法評価学，理学療法治療学などの講義で学んだ知識を応用し、学生同士の実習を通じ各種治療手技の基礎をしっかりと習得することを目的とする。	３ 後	60			○	

○			理学療法治療学演習Ⅱ	解剖学，運動学，運動療法学，理学療法評価学，理学療法治療学などの講義で学んだ知識を応用し、学生同士の実習を通じ各種治療手技の基礎をしっかりと習得することを目的とする。	３後	60			○		
○			臨床理学療法Ⅰ	解剖学，運動学，運動療法学，理学療法評価学，理学療法治療学などの講義で学んだ知識を応用し、学生同士の実習を通じ各種治療手技の基礎をしっかりと習得することを目的とする。	３後	60		○			
○			臨床理学療法Ⅱ	解剖学，運動学，運動療法学，理学療法評価学，理学療法治療学などの講義で学んだ知識を応用し、学生同士の実習を通じ各種治療手技の基礎をしっかりと習得することを目的とする。	３後	60		○			
○			地域理学療法学	地域リハビリテーションの概念ならびにその構造を理解すると共に、その中で理学療法の果すべき役割や責務を明確にし最適なインターベンションを図る術の理解に努める。	２前	30		○			
○			生活環境学	生活支援に関する諸制度、障害別における生活環境整備の留意点、バリアフリーの関連諸制度、住環境・福祉用具、そして寒冷領域との連携の在り方について学ぶ。	２前	30		○			
○			臨床実習Ⅰ（見学）	１．地域での病院・施設の役割やリハビリテーション部門の概略を理解する。２．社会や医療の中における理学療法士の役割と責任を理解する。３．患者様や指導者・スタッフとのコミュニケーションのとりかたを学ぶ。４．社会人・職業人としての目を養い、心を養う。５．理学療法士になることへの動機づけを高め、以後の学習への意欲を高める。	１後	45				○	
○			臨床実習Ⅱ（評価）	１．授業で学んだ知識・技術を、実習指導者の下で実際に症例に応用する。２．評価の一連の流れを体得する。３．症例の身体機能、精神機能、生活機能等を様々な角度から分析し、問題を把握する。４．医療人・職業人としての目を養い、心を養う。	２後	135				○	

○			臨床実習Ⅲー１（総合）	１．評価実習の経験を生かし、対象者様の全体像をとらえ目標設定をおこない、実習指導者の指導の下で理学療法プログラムを立案、実施する。２．対象者様との交流を通して、生活の視点を養う。３．リハビリテーションチームのあり方を学ぶ。４．専門職・社会人として責任ある態度・行動がとれるようになることを目指す。	３前	315				○
○			臨床実習Ⅲー２（総合）	１．評価実習の経験を生かし、対象者様の全体像をとらえ目標設定をおこない、実習指導者の指導の下で理学療法プログラムを立案、実施する。２．対象者様との交流を通して、生活の視点を養う。３．リハビリテーションチームのあり方を学ぶ。４．専門職・社会人として責任ある態度・行動がとれるようになることを目指す。	３前	315				○
合計				７２科目		3060		単位時間 （　　　単位）		